

## 第166回青森県立図書館協議会 会議概要

### 1 期日

令和4年7月12日（火）

### 2 開会

午後1時30分

### 3 閉会

午後3時5分

### 4 場所

青森県立図書館（青森市荒川字藤戸119-7）4階 集会室

### 5 議題

- (1) 令和3年度組織目標に対する評価について
- (2) 短期行動指針の進捗状況について
- (3) 図書館システムの更新に係る新たな機能等について
- (4) その他

### 6 出席者等

- (1) 出席委員の氏名  
竹浪 廣美 委員、須藤 紀子 委員、松井 京子 委員、浜田 祐子 委員、  
若松 清巳 委員、澤田 尚 委員、本間 維 委員、佐藤 幸 委員、  
平井 美史 委員
- (2) 欠席委員の氏名  
大里 公子 委員
- (3) 出席した職員  
清川副館長、佐藤奉仕課長、乳井近代文学館室長  
企画支援課：奈良岡副課長、松川副課長  
奉仕課：原田副課長、木村副課長、清水副課長  
近代文学館：竹浪副室長  
教育庁生涯学習課企画振興グループ：北澤社会教育主事

### 7 議長、副議長選出

議長及び副議長として、次の委員がそれぞれ選出された。

- (1) 議長  
須藤 紀子 委員
- (2) 副議長  
松井 京子 委員

## 議題に対する委員の主な意見・要望等

### 1 令和3年度組織目標に対する評価について

#### ○委員

新型コロナウイルス感染症拡大防止及び図書館システム更新に係る臨時休館中に全図書資料の蔵書点検を実施したということだが、実施した結果、分かったことがあれば教えていただきたい。

#### ■事務局

通常、6年から8年かけて全図書資料を点検するが、今回、臨時休館中に全図書資料を点検したことで、今まで見つからなかった不明図書資料を100冊以上発見することができた。

また、蔵書点検は本に貼ってあるバーコードを読み込み、そのデータを図書館システムに反映させる形で行うが、図書館システム更新直後のシステムに慣れない時期に、この作業が何日もできたことで、新しい図書館システムに慣れることができ、今後の蔵書点検をスムーズに実施できることにつながったと思うので有意義であった。

#### ○委員

貴重資料庫の蔵書点検も実施したのか。

#### ■事務局

実施した。図書館システムに登録されている図書資料は全て点検した。

#### ○委員

図書館システムに登録されていない図書資料はどうか。

#### ■事務局

図書館システムに登録しておらず、紙のリストで管理している古文書などの図書資料については、点検していない。

#### ○委員

了解した。臨時休館期間を有効に活用したと思う。

#### ○委員

県立図書館の利用者に対するサービスがマンネリ化しているように感じる。今までやってきたサービスを淡々とやっていくという風を感じる。短期行動指針のスローガンを「県民に寄り添う図書館」としているのであれば、利用者がどういう情報やサービスを欲しがっているのか、利用者のニーズを探りながら積極的に利用者に提示していく必要があると思うが、臨時休館中にそういった議論は図書館内でなされたのか伺いたい。

## ■事務局

臨時休館中は、職員が新しい図書館システムの操作方法を習得すること、また、利用者に使用してもらうためのマニュアル作り等に時間を要した。そのようなこともあり、2か月に1回、サービスの点検や改善等について話し合う機会を定例的に設けているが、この話し合い以外はできなかつたし、今、委員から御意見のあつたようなテーマについて、十分に議論を深められなかつた。

## ○委員

このような話し合いは、話し合おうと思わないとできないと思う。各チームで話し合い、若い職員のアイデアを取り入れるような雰囲気を作っていくのが大事である。

なぜこのような話をしたかという、会議に来る前に近代文学館に立ち寄つたところ、青森文学への新たな関心層の発掘、特に若い世代の来館を増やすための工夫として、文学館のガイドツアーを小学生向け、中高生向け、その他一般向けと年齢層毎にサービス内容を変えて実施しているのを見て、今までにないサービスに取り組んでいると感じたからである。図書館に入つてもワクワク感がないので、利用者のニーズを探り、試行錯誤しながら色々なサービスにトライして欲しい。

## ○委員

資料1「令和3年度組織目標に対する評価」の「(5) 関係機関との連携・協力」を見ると、連携の形としては、図書館が関係機関に出向き、図書館の資料を利用してもらうというものである。利用者の方に図書館にある色々な情報を利用してもらい自分の生活や学習に活かしていただくということを考えれば、そのようなニーズにより広く応えるために、図書館の情報だけではなく、関係機関の情報も取り入れることで、図書館の資料だけでは気付かないような情報についても利用者に提供することができると思うので、どのようにすれば関係機関の情報を取り入れることができ、より広く利用者に情報を提供できるのかを考えていただきたい。

また、図書館の入口付近で企画展示をやっているが、ほとんどが資料の展示であり、それだと素通りされてしまうこともあると思うので、関係機関から資料を借りたり、アイデアを出したりしながら展示内容をもう少し深掘りしていただければと思う。

## 2 短期行動指針の進捗状況について

## ○委員

県立図書館の本は近隣の市町村の図書館から借りられるとか、近代文学館で色々な展示をしている等、県立図書館では多様なサービスを実施しているが、そういったサービスをもっと積極的に学校に広報して欲しい。県立図書館で扱っている資料に興味を持っている生徒はたくさんいるが、その資料をどうやって活用できるのか生徒は分かっていない。教員も県立図書館にはどういったサービスがあるのか、近代文学館では何の展示をしているのか分かっていない。分かれば生徒に県立図書館の利用を案内することができる。県立図書館のサービス内容が分かるチラシ1枚あれば、学校図書館に貼って、それを見た生徒が県立図書館を利用するというにつなげていくと思うので、ぜひ

お願いしたい。

#### ■事務局

今年度、県立高校では、総合的な探求の時間を活用して、地域の課題を見つけ、解決するという事業を県教育委員会主体で実施しているが、先日、ある県立高校から自分の地域にどんな課題があり、それを解決するために生徒はどの本を調べればいいのかという相談があった。県立図書館として、この事業の説明会に出向き、県立高校に対して県立図書館として何ができるのか、何を伝えられるのかをPRする予定である。

委員の御意見を聞いて、学校側が県立図書館のサービスを求めていることが分かったので、待っているだけでなく、積極的に県立図書館の利用につながるようなPR方法について、検討していくこととする。

#### ○委員

資料2「短期行動指針の進捗状況」の近代文学館の説明で「現在活躍中の青森県出身の作家の情報を発信」とあるが、この部分に関連したことで、昨年、八戸のブックセンターで作家の高橋弘希氏が様々な質問に答えるトークイベントがあり、そのイベントに八戸高校の生徒が約10名参加していた。高校生と高橋氏の本を読んだ感想について話をしたが、私とは違う感想で、高校生はこういうことを思うのかと刺激を受けた。こういった高校生の感想や意見をそのイベントに参加した人だけが共有するのではなく、参加していない人も共有できるような取組みがあってもいいのではと思った。

#### ■事務局

高校生の意見や活動をいかに多くの人に波及させていくのかという新しい視点だと思う。このような取組が県立図書館でもできるか考えていきたいと思う。

#### ○委員

以前教員をしていたが、夏休み前に生徒がそれぞれグループを作って、自分がなりたい職業について、色々な本を調べながらレポートを書くという課題を出したことがある。こういった課題に電子図書館は活用できるのではないかと思う。高校生はみんなパソコンを持っているし、調べた本を生徒同士で共有できるので、レポートも作成しやすいと思う。このような形でも電子図書館を活用できると思う。しかし、資料3「図書館システムの更新に係る新たな機能等について」に三沢市、おいらせ町で電子図書館サービスを実施しているとあるが、三沢市、おいらせ町に住んでいる人又は通勤している人しか電子図書館サービスは利用できない。そう考えると、県内の誰でもサービスを受けれる県立図書館が、専門書や学術書を中心とした電子書籍の収集だけではなく、高校生の学習のために利用できるような電子書籍についても提供してもらえれば、先程言ったような活用の仕方ができると思う。

#### ■事務局

電子書籍の収集については、紙の資料と同様の収集基準によって収集している。現状、電子書籍の数が少なく、その中から収集基準に合った資料を選んでいるところであり、

必ずしも紙の資料が電子書籍として販売されていない場合もあるが、今後は、今、御意見のあった資料の収集についても、検討していくこととする。

### 3 図書館システムの更新に係る新たな機能等について

委員からの意見なし

### 4 その他

#### ○委員

令和4年度の組織目標についての説明があったが、組織目標については、全職員が共有し、どの職員に聞いても目標を言えるようでない、みんなの力が分散されてしまう。その意味においては、1年かけてもっとシンプルにした方が良いのではと感じた。図書館システムが更新になり、ホームページもリニューアルされたが、そのホームページのトップ画面に「地域を支える文化と学習の情報拠点」とある。このことについて、組織目標で読むこともできるが、この「地域を支える文化と学習の情報拠点」こそが県立図書館の目指すべき方向性なんだと思う。短期行動指針にある「県民に寄り添う図書館」は、気持ち的な部分、意識的な部分という感じだが、ホームページのトップ画面にある「地域を支える文化と学習の情報拠点」は、県立図書館として目指す方向が意志として表れていて、県民にとって分かりやすいと思う。県立図書館として目指す方向を定め、それに向かって職員が力を合わせ、それぞれの立場で何ができるかを考えれば、自ずと目標は見えてくると思うので、ぜひ考えて欲しい。

#### ■事務局

組織目標とホームページのトップ画面にある「地域を支える文化と学習の情報拠点」との整合性を考慮しながら、考えていきたいと思う。